

## 令和2年9月 報道機関との定例懇談会 要旨

### □ 情報提供項目

新型コロナウイルス感染症の対応状況、久慈地方物産展&地産地消フェア、久慈港湾口防波堤見学会などについて市長から報道機関にお知らせしました。

### □ 記者との質疑応答

記者： 新型コロナウイルスに感染した方へ誹謗中傷の話があったが、感染者またはご家族から相談あったのか。

市： JRバスの運転手が感染した報道があり、JRバスの乗車人数が減り、風評被害を受けて売り上げが下がったとの相談はあった。

SNS上では事実ではないことが書かれているとみられている。

市役所にも、感染した方を誹謗中傷するような内容があったと電話で数件、受けている。

記者： 定額給付金は未申請が43人いるようだが、申請しない理由は。

市： 申請されていない方には自宅を訪問し申請を促した。未申請の方は、生活の実態がなく追跡できなかった方である。

未申請者のうち、8世帯は郵便を出しても宛所なしで戻ってきていて、現住所を調べても文書を届けることができない方だった。

記者： プレミアム飲食券等の売れ行きはどうか。

市： プレミアム飲食券の販売数は全体の4割程度の売れ行き、交通券と宿泊者限定飲食券は10%未満。業務委託先の商工会議所と連携してPRしていきたい。

記者： 新型コロナ感染者を特定するような動きはあるか。誹謗中傷する人、特定しようとする人にどのように注意喚起するか。

市： 小さい町なので噂などはすぐに広まる。感染症は病気であり、快復に向けて療養しているときに誹謗中傷を受けるのは大変なこと。立場が変わった時のことを考えてほしい。明日は我が身である。防災行政無線でも繰り返し伝えたい。誹謗中傷している人を特定出来たら直接伝えたい。

記者： 市に誹謗中傷は何件寄せられているか。

市： 保健サイドの窓口には数十件以上は寄せられている。

記者： 物産展はどの程度の規模となるか。

市： アンバーホール駐車場全体を例年使用していたが、正面前の駐車場のみに規模を縮小する。出店事業者は市内の事業所のみ限定し、飲食場所を設けず、テイクア

ウトのみとする。店舗の間隔を十分にとるなど感染症対策を十分に講じて実施したい。

記者 : 9月の定例会議において市に放射性廃棄物を持ち込ませない条例を制定する請願があった。全国でも条例制定の動きがあるが市長の考えは。

市 : 県内では宮古市、釜石市で制定されている。条例がないと首長の判断になることもある。放射性廃棄物処分場は国としては必要だが、将来そこに住む人にとっては大変な問題。私も問題と思っている。議会の様子や市民の意向をみて、検討したい。

記者 : 国勢調査の調査票の回収期間は。

市 : インターネット回答は、9月14日～10月7日。郵送・調査員による回答は、10月1日～10月7日。

記者 : 台風19号被害から1年経過するが、現時点で残っている市の課題は。

市 : まずは道路復旧である。県が管理する河川の河床掘削は、当面、行われなければならない。

台風被害により2回続けて床上浸水被害があり、固定式の大型排水ポンプ場の整備しなければならない。市内15カ所に排水ポンプ場の整備計画があるが、5カ所だけしか整備されていないので、現在、3カ所同時並行で整備を進めている。

これからは災害対策をしっかりと取り組まなければならない。災害対策は、行政にとって大きな柱となる対策である。